

マネジメントシステムにより統合 された複数法人における ISO14001/OHSAS18001の 構築と運用

2008.10.7
新潟テルサ

宮田グループ
統括環境管理責任者 宮田 憲史



Contents

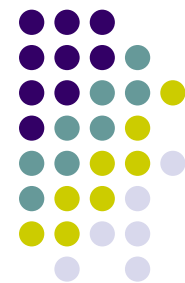
- I : 「宮田グループ」概要説明
- II : マネジメントシステムの構築
- III : マネジメントシステムの運営
- IV : 内部監査
- V : まとめ・今後の課題

I : 宮田グループ概要

宮田グループ 概要説明

- ・4社5事業所で構成
- ・代表取締役 宮田 康雄（4社全て）





● (株)宮田才吉商店 本社工場

- ・売上高 : 49億円
- ・主な事業 : 金属リサイクル・古紙リサイクル
産業廃棄物中間処理
- ・社員数 : 25名 (H20年9月末現在)
- ・認証取得 : ISO14001 H15年 9月
OHSAS18001 H18年11月
- ・休業災害ゼロ 連続日数
3,168日 (H20年9月末現在)





● ニイガタ・クリーンメタル(株)

- ・売上高 : 15億円
- ・主な事業 : 廃自動車・廃OA機器の破砕による
金属リサイクル(製鋼原料の製造)
- ・社員数 : 13名(H20年9月末現在)
- ・認証取得 : ISO14001 H15年 9月
ISO9001 H16年12月
OHSAS18001 H18年11月
- ・休業災害ゼロ 連続日数
2,770日 (H20年9月末現在)



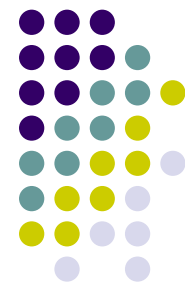
ニイガタ・クリーンメタル(株)



- (株)萬屋

- 売上高 : 5億円
- 主な事業 : 廃自動車の解体とリサイクル
パーツの製造・販売・輸出
- 社員数 : 31名 (H20年9月末現在)
- 認証取得 : ISO14001 H15年 9月
ISO9001 H16年12月
OHSAS18001 H18年11月
- 休業災害ゼロ 連続日数
1,794日 (H20年9月末現在)



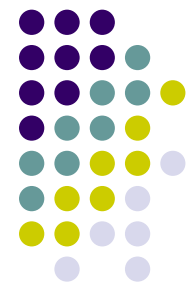


- (有)渡辺銅鉄店

- 売上高 : 3億円
- 主な事業 : 金属リサイクル
被覆電線のナゲット処理
- 社員数 : 7名 (H20年9月末現在)
- 認証取得 : ISO14001 H17年11月
OHSAS18001 H18年11月
- 休業災害ゼロ 連続日数
697日 (H20年9月末現在)



(有) 渡辺銅鉄店



● (株)宮田才吉商店 小千谷営業所

- ・売上高 : 本社工場と連結
- ・主な事業 : 金属リサイクル
アルミ溶解炉でアルミ再生インゴット製造
- ・社員数 : 9名(H20年9月末現在)
- ・認証取得 : OHSAS18001 H18年11月
(ISO14001 認証取得に向けて準備中)
- ・休業災害ゼロ 連続日数
1,414日(H20年9月末現在)



(株)宮田才吉商店
小千谷営業所



(グループ参加・年表)

- 大正12年 3月 1日 宮田才吉が柏崎市小倉町にて廃品回収問屋を創業。
- 昭和33年 7月 4日 宮田才吉商店を有限会社に改組。資本金300万円
- 昭和38年 4月 1日 渡辺銅鉄店 創業。
- 昭和48年 4月10日 萬屋 創業。
- 昭和58年 3月 1日 創業60年を契機に、宮田才吉商店・小千谷営業所を開設。
- 平成 2年 9月 7日 ニイガタ・クリーンメタル設立
- 平成 5年 9月 6日 ニイガタ・クリーンメタル操業開始。
- 平成13年12月 7日 (有)萬屋に宮田才吉商店が1,700万円を出資し、同社をグループ化。
- 平成14年 9月 1日 宮田グループ3社のISO14001MSの認証取得に向けたキックオフ開始
- 平成15年 9月16日 萬屋が新工場に全面移転し、操業を開始。
- 平成15年 9月26日 宮田グループ3社合同のEMSでISO14001認証取得。
- 平成16年12月 7日 ニイガタ・クリーンメタル、萬屋、それぞれが同日付けでISO9001認証取得
- 平成17年 1月18日 小出・渡辺銅鉄店の出資持分100%を宮田が取得し、同社をグループ化。
- 平成17年 8月25日 ニイガタ・クリーンメタル1,900日無災害記録証授与。
- 平成18年11月 8日 宮田グループ4社5工場総てでOHSAS18001認証取得。
- 平成19年 9月26日 宮田才吉商店が“安全管理優良事業場”で県労基協会連合会長賞受賞。
- 平成19年11月15日 渡辺銅鉄店がISO14001の認証取得。
- 平成20年 2月15日 宮田才吉商店本社工場が“休業災害ゼロ連続”3,000日を達成。
- 平成20年 2月22日 ニイガタ・クリーンメタルが“新潟県優良リサイクル事業所”に認定される

認証取得状況

	ISO14001	ISO9001	OHSAS18001
ニイガタ・クリーンメタル	2003/9 3事業所で認証取得	2004/12認証取得	2006/11 グループ全体で認証取得
萬屋		2004/12認証取得	
宮田才吉商店 本社工場			
渡辺銅鉄店	2007/11 4番目の事業所として 認証取得		
宮田才吉商店 小千谷営業所	取得準備活動中		

- 渡辺銅鉄店は認証範囲の拡大という形でグループのISOマネジメントシステムに参加。



- II マネジメントシステムの構築



マネジメントシステムの導入

- 2003年頃、ISO取得企業が増加

社長 : 時代的に必要なものとの認識
⇒ 講習会へ参加。内容の確認

理解 : ISOを構築して運用する原動力は「社員」
社員が自分たちでシステムを作り上げ、
活動の中心になって動かしていくもの。

- 導入することが社員教育にもなる。
⇒ 指示待ち人間の排除。
積極的に参加する自発的に行動できる社員の育成。



スタート

- ⇒ グループ各社の業務の性格上、事務スタッフより現場スタッフの人数のほうが多く、書類作成作業等に不慣れな者が多いため、コンサルタントなしでの取得は困難と判断し、コンサルタントの協力を得てスタートすることとなった。
- ⇒ 資源のリサイクルや産業廃棄物の処理を業としている関係上、環境ISOから取り組むのが極く自然、という考え方。

環境方針(3社3事業所共通)

(1)基本理念

株式会社宮田才吉商店、ニイガタ・クリーンメタル株式会社、及び、株式会社萬屋、の宮田グループ3社は、人類共通の課題としての地球環境保全の重要性を強く認識し、3社共通の資源リサイクル業務を通じて循環型社会実現に資するべく、以下のような環境基本方針を定め、環境に配慮した企業活動に取り組みます。

(2)基本方針

- 資源のリサイクル業務を通して、地球規模でも環境負荷軽減を目指します。
- 環境保全活動のために、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- 環境関連法規並びにその他要求事項、及びその精神を遵守し、環境負荷の低減及び汚染予防を図ります。
- 廃棄物の適正処理と減量、省エネルギー、省資源、等の環境目的及び環境目標を設定し、定期的に見直しを行います。
- 環境意識の周知徹底のため、全社員に対して環境教育及び啓発活動を実施します。
- この環境方針は一般に公開することと致します。

(3)スローガン

リサイクル&アメニティー



事業の共通点＝共通の目的・目標

- 3社の共通点 : 資源リサイクル業

本業で生産性の向上や廃棄物削減を目指す

⇒ 資源の有効活用(プラスの影響評価)

共通目標:リサイクル率の向上

例:取扱量を前年比～%UP = 資源のリサイクル量増大

:木屑の単純焼却をRDF燃料製造用に＝廃棄物の削減

:シュレッダーダストに混入の非鉄金属量を削減＝廃棄物削減

:ボディーパーツ販売の拡大＝リサイクルパーツのリユース拡大



共通の問題点（例）

- 共通点：周囲に水田のある立地

油の管理の重要性（環境保全活動）

共通目標：油水分離槽管理の徹底、油の流出防止

例：油水分離槽の管理

⇒ 油の出る作業場の隔離

⇒ 分離槽に入る段階で油膜程度に

: 車両などからの油漏れ防止

⇒ 油分洗浄剤・吸収マットの常備

⇒ 雨天時、構内への油分洗浄剤の散布



油の漏出対策（例）

労働安全衛生方針(4社5事業所共通)

(1) 基本理念

- 宮田グループ4社5事業所は、資源リサイクルを通じて世界の人々の社会生活の向上と地球環境の保全に貢献することこそ、グループ全体に課せられた使命であると考えます。
- そして同時に、この大切な使命を帯びたグループ企業を存続させ発展させるためには、心身ともに健康で安全快適に働ける職場環境が不可欠であり、そうした職場環境の確保はまた、新たな顧客満足の上昇や環境負荷の低減を生み出す大きな原動力たり得るものと確信します。
- 私たち宮田グループ全社全事業所は、一丸となって、心身ともに健康かつ安全快適な職場環境の構築と保持に向け、以下の方針に基づき労働安全衛生マネジメントシステムを定め推進いたします。

(2) 基本方針

- 宮田グループは、安全快適な職場環境実現のため、労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、これを確実に実践いたします。
- 労働安全衛生関連法規並びにその他の要求事項を遵守します。
- 定期的に労働安全衛生マネジメントシステムの見直しを行い、継続的に改善を図ります。
- 労働安全衛生意識徹底のため、全社員に対して教育・訓練および啓発活動を実施します。
- この労働安全衛生方針は、グループのために働く外部関係者全ての人にも周知させるとともに、一般にも公開いたします。



事業の共通点＝共通の目的・目標

- 休業災害ゼロ日数の継続(安全作業の継続)
全事業所共通目標
実績最高 H20年9月末現在
宮田才吉商店 本社工場 3,168日を更新中
- 高リスク作業の評価低減対策
共通作業(ユンボ、移動式クレーン、・・・etc)
リスクレベルAの作業に対策を実施し、
すべて Bレベル以下にする



導入コスト

- コンサルタント費用 = 1グループ < 3社個別
- 認証取得費用 = 1グループ < 3社個別
- * 3社 (ISO14001 取得時) の担当者が一同に会して1グループとして共通のEMSマニュアル&マネジメントシステムを構築し、運用していく。
- * 各社個別の作業マニュアル・環境影響評価などは個別に作成。 基幹MSのみ共通。
- * 認証取得が目的ではなく、確実な運用が目的なので、認証後もコンサル契約は継続。



- Ⅲ マネジメントシステムの運営



人員

- ISO14001:1996導入開始時のプロジェクトメンバーは10名

宮田才吉商店	4名(統括管理責任者、管理責任者含む)
ニイガタ・クリーンメタル	3名(管理責任者含む)
萬屋	3名(管理責任者含む)

* 萬屋はグループ参加直後で、人員規模もまだ非常に小さい段階であり、通常業務の面でも翌年に新工場への移転を控え、更に新入社員も多く、付いて行けるかどうかの不安を抱えてのスタートだった。

結果 ⇒ 他2事業所が萬屋の作業を一部肩代わり。
グループ間の結束も強化。

各社・各事業所の人数構成の変化

(平成14年9月23日 ISOスタート時点 役員を除く)

	事務スタッフ	工場作業員	合計
宮田才吉・本社	6人	19人	25人
ニガタ・クリーンメタル	2人	10人	12人
萬屋	3人	5人	8人
合計	11人	34人	45人

* 渡辺銅鉄店はまだグループ未参加。小千谷営業所はISO適用前

各社・各事業所の人数構成の変化

(平成20年9月1日 現在 役員を除く)

	事務スタッフ	工場作業員	合計
宮田才吉・本社	6人	19人	25人
ニガタ・クリーンメタル	2人	11人	13人
萬屋	10人	21人	31人
渡辺銅鉄店	1人	6人	7人
小千谷営業所	3人	6人	9人
合計	22人	63人	85人

* 小千谷営業所は認証はまだだが、準備段階に入っているため、運用には参加 30



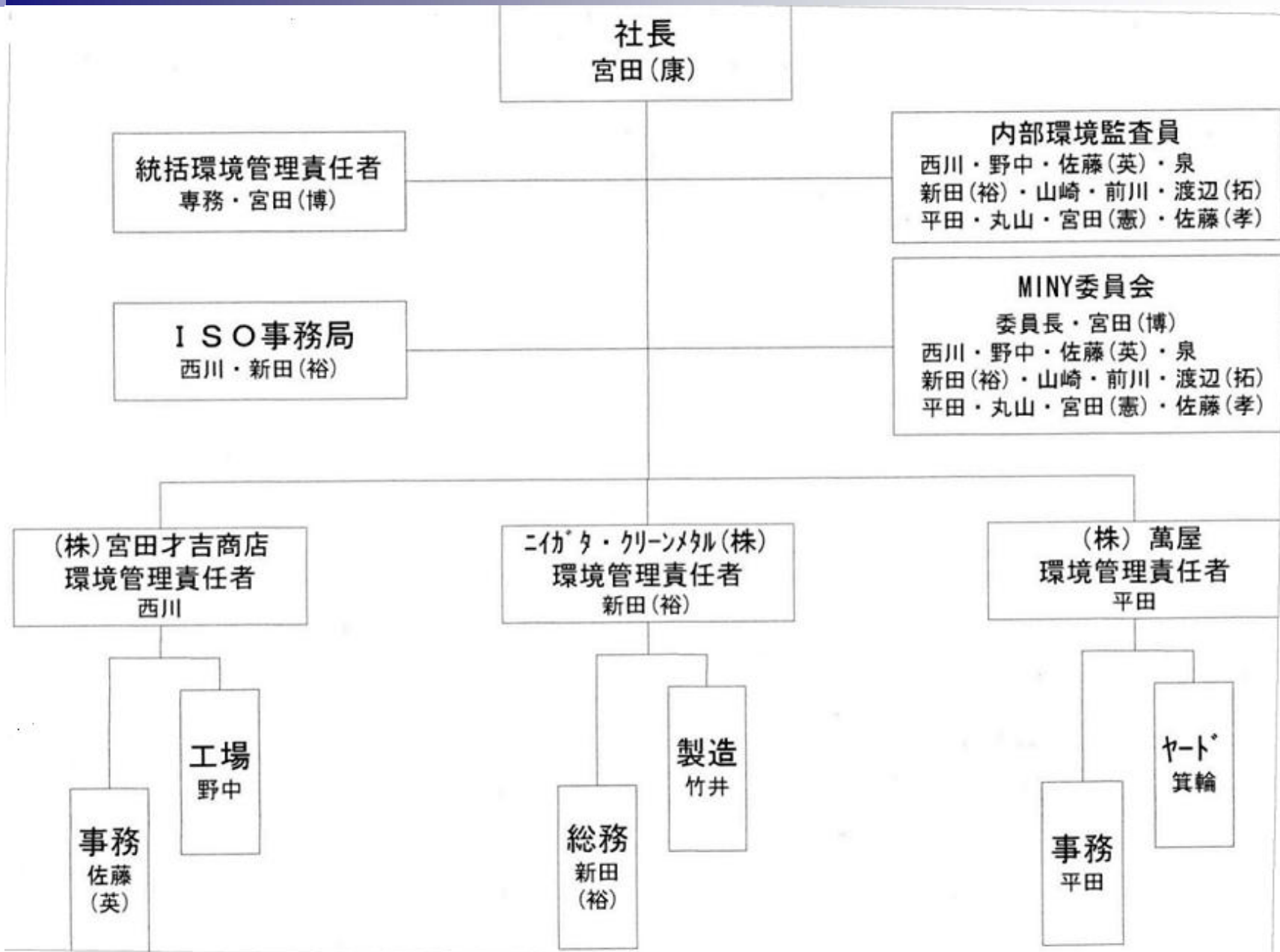
運営委員会

- マネジメントシステム取組み開始時参加の3社の頭文字とISOの「I」を取って、

「MINY委員会」と命名


- 各社から2～3人を委員として選出。
- マネジメントシステムの運用をフォロー。
(選出には事務員・作業員の区別無く)

- 1～3年の期間を置いて、委員の増員、交代を行い、同じ人間だけでの定着をしないようにしている。
- 現在ISO14001とOHSAS18001のマネジメントシステム全体で、全社員85名中、計43名がいずれかの委員として関わりを持っている。



環境マネジメント組織図

2008年1月4日

承認	作成
社長	ISO事務局
	

社長
宮田康雄

統括環境管理責任者
宮田 憲史

ISO事務局
事務局長 泉 敏明
五十嵐達也
竹内 洋之

MINY委員会
委員長 宮田 憲史

宮田 博	西川 紘一	佐藤英子	泉 敏明
柳健太郎	石塚健一	小林弘幸	
新田裕子	前川 淳	山崎浩史	平野雄一
五十嵐達也			
平田 栄	箕輪文男	丸山和栄	井上曉奈
近藤千恵子	小池大輔	竹内洋之	
喜多村芳樹	水内輝美	堀沢正勝	和田 実
友野 孝			
陽田裕介	岡部 香	廣井健一	篠田一善
高橋貞幸	大平孝丸	山内昌彦	

内部環境監査員

宮田 博	宮田憲史	西川 紘一	佐藤英子
泉 敏明	柳健太郎	石塚健一	小林弘幸
近藤 学	本島秀人	中野直美	
新田裕子	前川 淳	山崎浩史	品田静江
渡辺拓也	五十嵐達也	近藤修治	平野雄一
平田 栄	箕輪文男	丸山和栄	木戸恵司
近藤千恵子	水内輝美	岡部 香	竹内洋之
喜多村芳樹	陽田裕介		

㈱宮田才吉商店
環境管理責任者
西川 紘一

㈱宮田才吉商店 (小千谷)
環境管理責任者
喜多村芳樹

ニイガタ・クリーンメタル㈱
環境管理責任者
新田裕子

㈱萬 屋
環境管理責任者
平田 栄

(有)渡辺鋼鐵店
環境管理責任者
陽田裕介

事務部門	工場部門
佐藤英子	柳健太郎

事務部門	工場部門
水内輝美	堀沢正勝

総務部門	製造部門
新田裕子	前川 淳

総務部門	ヤード部門
近藤千恵子	箕輪文男

事務部門	工場部門
岡部 香	廣井健一

- より多くの社員が運用に深く関わることにより、ISOそのものと、環境・品質・労働安全衛生への理解を深め、責任感を強めることにつながる。
- 通常、デスクワークを行わない現場作業員の委員が、文書作成に携わることにより、文書作成能力の向上、報告の仕方の上達、PC操作の習得などのスキルアップも行われる。



グループ間交流

- 年4回のMINY委員会に全事業所の委員の代表2～3人が集まり、マネジメントシステムの経過報告を行っている。
- 2004年の中越大震災、2007年の中越沖地震直後、各社が連携を取り、被害に対するフォローが迅速に出来た。

グループ間協力の事例

■ 2004年

中越大震災・被災地 : 小千谷営業所

車道が寸断され孤立した小千谷営業所に社長以下、バイク部隊を各社から編成し、支援物資などを運搬。

■ 2007年

中越沖地震・被災地 : 柏崎の3社

宮田本社の機械冷却用クーリングタワーの水が地震で断水のため機械の操業が出来なくなったが、萬屋からの井戸水の輸送応援を得て、早期の運転再開に漕ぎつけた。

- 事業所ごとに業態が大きく異なるので、これまで一部の人間に限られていた事業所間の人的交流が活発に。
- OHSAS取得のH19年2月と今年の2月、全社社員を集めて労働安全衛生大会を実施。KYT訓練や、消防署員に来てもらったの救急救命講習やAEDの講習など、全社一斉での社員教育や社員の交流を図った。



第1回 労働安全衛生大会
KYTトレーニングと発表会
2007年2月





**第2回 労働安全衛生大会
救急救命・AED操作 講習会
2008年2月**



グループ間の結束強化

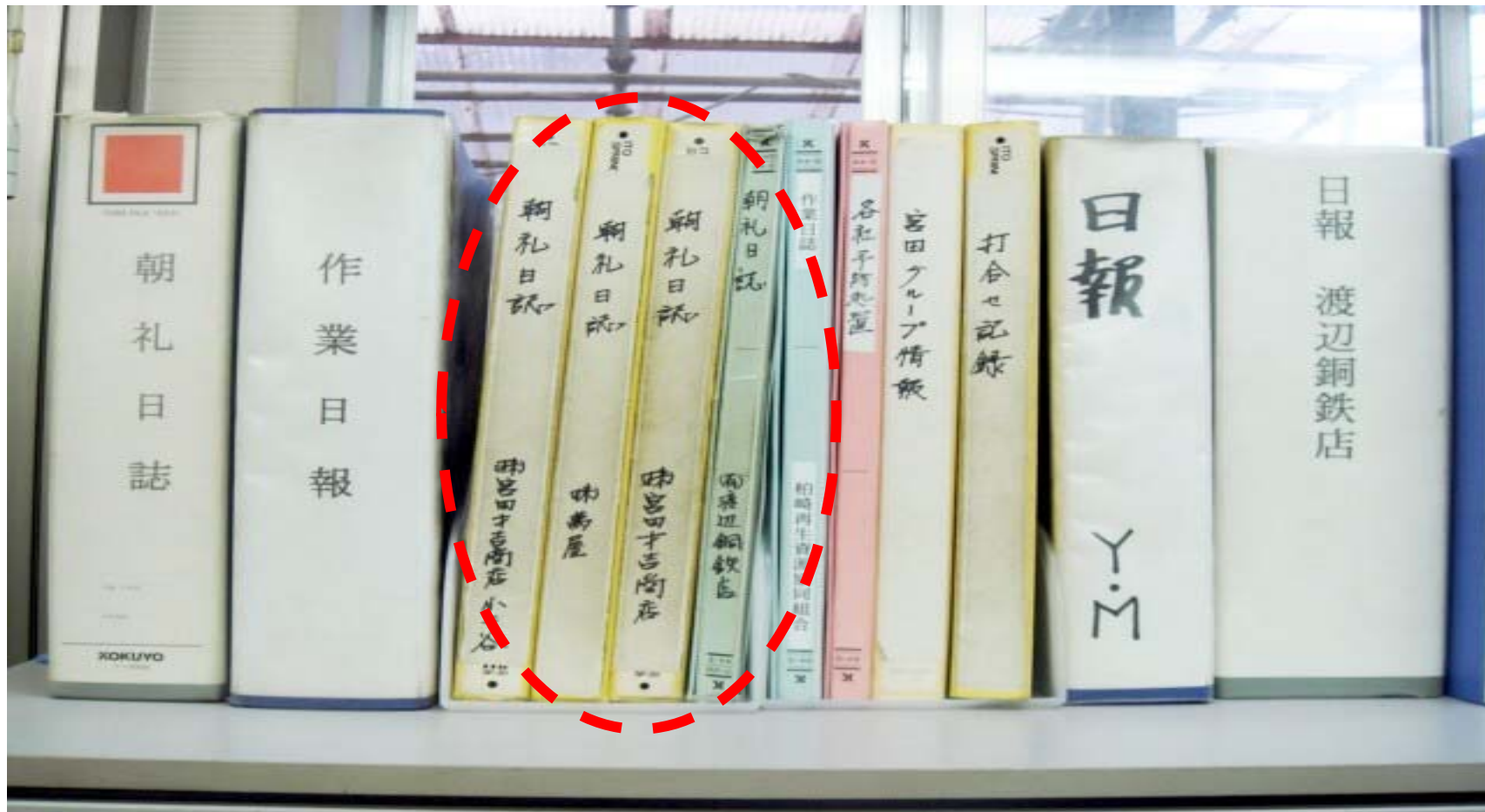
- 他事業所への理解の深まり
 - ⇒ グループ間で資材の融通・提供、リユースの促進
 - ⇒ 協力体制が構築される
 - (例) グループ内他社の顧客の処理に困っていた古紙を宮田才吉本社で処理。
(グループ内他社での営業ツールとして活用)
- 新入社員教育の一環として、グループ内他社の見学会を実施
 - (リサイクルや産業廃棄物処理の流れの理解向上のために大きくプラス)



グループ間の水平展開

- 自社で起こった不適合や予防処置の報告書を他事業所にFAXで送信。
- 他社事例から、思いもしなかった予防処置等を自社に水平展開できる。
- 朝礼時に、ヒヤリハットや事故事例などを取り上げ、朝礼日報に記録。
- 他の4事業所宛に互いにFAXし、他者のヒヤリハット事例を翌朝の朝礼で発表・注意を促す。

各社の朝礼日報は、必ず互いに
全社にFAX配信し、情報の共有と
ヒヤリハットの全社共有を図ってる



口紀之	昨日まで3日間、フオークリフトの事故発生率の推移を報告し、ありがとうございました。
事務	<p>今日の新潟日報に、北越メタルが2009年3月期の中開期の業績予想を上方修正したとの記事がありました。主原料の鉄スクラップが7月以降急落し、当初見込みより安価に推移する見通しとなったためである。</p> <p>2. 宮田グループ各社の意識チェック度と事故発生率を数値化した表によると、宮田は意識チェック度は高いが、事故発生率は最悪であるとの結果が出ています。意識が高い割には事故が多いということは、話をよく聞いていないということか。実態の伴った意識改革を。</p>
常務	<p>今朝、社長からFAXがあり、昨夕柏崎再生資源協同組合のヒヤリハット報告書を見ていたら、フオークリフトのエンジンを始動したら、ギアがバックに入っていて、後退を始めたとのこと。原因としては、ギアをニュートラルにしてなかったこと、サイドブレーキを引いてなかったこと、着席しないで外から手を伸ばしてエンジンをかけたこと等、基本的なミスが原因であった。また、重大なポイントを記載しないまま報告書を作成していたというミスも重なっていた。</p> <p>OHSAS、ISOはマニュアルを型どおりに行なえば良いというものではない。更なる意識の徹底をお願いします。</p>
	<p>ト・ニアミス事例集など。・ISO14001・IS</p>

朝礼日報へのヒヤリハット記載例



マネジメントシステムの統合

- ISO14001とOHSAS18001はマネジメントシステムの規格の整合性が取れているので統合化を行い、統合マニュアルを作成し、現在すでに運用開始。
- 環境と労働安全の評価の違いなど一部を除き同一のプロセスを利用。



環境と労働安全のMINY委員会

- MINY委員はH20年8月末までは、まだ別々に委員会を開催
(実績報告もISOとOHSASは別開催)。
(ISOは年4回・OHSASは年3回)
- ISOとOHSAS両方に精通している委員が少ないためだったが、今年度(H20年9月開始)から実績報告の委員会を同時開催することにより、双方の委員に対する教育を通じて委員の統合も視野に入れつつ運用していく。



統合のメリット（例）

- ISO・OHSASと分類が難しい場合（もしくは両方にかかる場合）1枚の書類で運用が済む。
- 教育がISO／OHSASと同時に行え、時間の短縮になる。
- マニュアル・書式が統合されたために、記載方法などにまだ一部に混乱がある



- IV 内部監査



内部監査(グループ間監査)

- 監査方法の例

(監査チーム)

宮田才吉商店

ニイガタ・クリーンメタル

萬 屋

(被監査者)

⇒ ニイガタ・クリーンメタル

⇒ 萬 屋

⇒ 宮田才吉商店

(相互監査の組み合わせ・5x4の20通りの組み合わせ)

- まったく別の業態の他社を監査できる

(直接の上司ではないので、監査に遠慮が要らない)

(実質的には外部の人の目からみた内部監査)

- 監査前に相手事業所の作業マニュアルなどを良く確認しないと、満足な監査が出来ない。
⇒ グループ間の理解度のUPに繋がる
- まったく違った業態を監査することになるので、同一社内の人間のように作業に対する思い込みがなく、全然違った角度からの客観的な監査が期待出来る。
⇒ “わが社の常識・世間の非常識”
- 各社毎に監査する力量の違いが、不適合の数に表れ、自社の監査員のレベルを客観的に比較することが出来る。
⇒ 定期的に監査員のレベルアップの教育を実施

年間内部監査実施計画書

予定日/実施日	被監査部門	監査範囲	監査チーム メンバー	その他
2008/5/7 (水)	WDT内部監査		MS監査委員	
2008/5/7 (水)	ODY内部監査		NCM監査委員	
2008/5/8 (木)	MS内部監査		YRZ監査委員	
2008/5/8 (木)	I S O事務局&統括内部監査		YRZ監査委員	
2008/5/9 (金)	NCM内部監査		WDT監査委員+M S監査委員	MSからの監査委員は1名。
				主にWDT監査員のフォロー
2008/5/9 (金)	社長 内部監査		WDT監査委員+M S監査委員	MSからの監査委員は1名。
				主にWDT監査員のフォロー
2008/5/9 (金)	YRZ内部監査		ODY監査委員+M S監査委員	MSからの監査委員は1名。
				主にODY監査員のフォロー

後発監査チームへのフォロー例

2008/5 /9 (金)	NCM内部監査		WDT監査委員 +MS監査委員	MSからの監査委員は1名。
				主にWDT監査員のフォロー
2008/5 /9 (金)	社長 内部監査		WDT監査委員 +MS監査委員	MSからの監査委員は1名。
				主にWDT監査員のフォロー

- V まとめ(結果・今後の課題)



結 果

- 社員主体の運用とグループ間の協力でグループ全体に、PDCAサイクル体制が確立された。
- 工場構内の6S(5S + Safety)が進んだ。
- 指示待ち人間の排除と自発的行動のできる人間の育成は、徐々に成果を現し始めている



今後の課題

- このままグループ運営継続か、各社毎に独立か。
- 未だに業務とは別もの、という意識の残っている社員の存在
 - ⇒ 未だ、教育・意識付けの不足あり
- システムの簡素化



完

以上で終わりです、

最後までご静聴、
誠に有難うございました。